

令和3年8月 大雨による流木等被害状況視察

令和3年8月、停滞する前線の影響で九州北部では発達した雨雲が流れ込み続け、熊本県では降水量が観測史上最も多くなっているところがあり、球磨川などの河川から流れ込んだ流木や家庭ゴミなどが八代海を漂流しているとの情報を得て、宇城市から八代市までの現地被害状況視察を行いました。松合の国道266号線沿いの海岸に流木等の漂着物があり、また八代市の球磨川河口域においては、流木等の漂流物が見受けられ、漁網にはゴミ等が付着し操業に支障をきたしている状況です。今後も更なる大雨が予想され、県漁連としても大変危惧しております。

【各地の被害状況】

